

## 株式会社タムロン

### 2021年12月期決算説明会

日時：2022年2月9日（水）16:00～17:00

#### 【主な質問と回答】

**Q1. 2021年の自社ブランドの増収率はCIPAの伸び率よりも低いと思うが、苦戦しているのか？**

**A1.** 2020年は市場がコロナ影響で大幅減となっていたが、自社ブランドは健闘して市場ほど落ち込まなかったことによる。対前年のハードルの違いがある。  
コロナ影響前の2019年比では、市場の△7%に対し、自社ブランドは△8%であり、市場とほぼ同等となる。

**Q2. 監視&FA関連事業の地域別の売上状況はどうだったのか？**

**A2.** 拠点としては、米国が+約15%、欧州+約10%、中国+約10%と好調だったが、売上構成の高い日本でTV会議用の需要減影響等で微減収となった。  
なお、TV会議用を除けば、日本も約+15%のプラス成長となっている。

**Q3. 2021年の各カテゴリー別の台数の実績は？**

**A3.** 写真関連事業では、自社42万台、OEM82万台。  
監視&FA関連事業は、141万台。  
モビリティ&ヘルスケア、その他事業では、車載794万台、DSC/VC11万台、ドローン3万台。

**Q4. 2022年で2023年中期経営計画の売上、利益ともに達成する計画となっているが、2023年中期経営計画に変更はないのか？**

**A4.** いまだコロナの収束は見ておらず、部材供給、資源高、原材料高等の影響度合いも定かではなく、為替動向など不確定要素は多分にある。そういった中でも、2023年中期経営計画の一年前倒しを2022年計画として掲げたものであり、まずはその達成に2022年は邁進していく。  
今後、不確定要素の動向、業績の進展等に一定の目処がついた際には、2023年に向けた方向性をお示ししたいと考えている。

**Q5. 2022年の監視&FA関連事業の売上高計画は、伸び率が高すぎないか？確度は高いのか？**

**A5.** カメラメーカー等とのプロジェクト案件や新機種開発スケジュールに沿った計画であるが、受注が全て確定しているものではないため、もちろん変動はある。

**Q6. 2022年の各カテゴリ別の台数の計画は？**

**A6.** 写真関連事業では、自社 39万台、OEM 95万台。

監視&FA関連事業は、176万台。

モビリティ&ヘルスケア、その他事業では、車載 869万台、DSC/VC 7万台。

**Q7. 原材料高や部品不足の影響は2022年計画にどの程度折り込まれているのか？**

**A7.** 具体的な金額は控えるが、数億円単位で影響は見込んでいる。

主要部材の硝材等の影響が大きいですが、金物等もやはり値段は上がっている。

**Q8. 2022年のモビリティ&ヘルスケア、その他事業は利益率が悪化する計画のようだが、要因は？**

**A8.** 注力分野での医療分野などではコロナ渦で営業等、パートナーシップ強化が図れなかった面があり、2022年においてはそのあたりの経費増も織り込んでいる。将来の種まき活動を活性化させていくこともあり、増益は見込むが、利益率は若干低下する計画となっている。

<ご留意事項>

本資料は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しており、説明会でお話したことをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。